

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-137	15-104	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Drug-Alcohol Interactions in Older U.S. Adults. アメリカの高齢者における薬とアルコールの相互作用について		
執筆者		
Qato DM, Manzoor BS, Lee TA.		
掲載誌		
J Am Geriatr Soc. 2015 Nov;63(11):2324-31. doi: 10.1111/jgs.13787.		
キーワード		PMID
高齢者、アルコール、市販薬、処方薬		26503899
要 旨		
目的： アメリカの一般代表集団において、薬とアルコールの相互作用を調べた。		
方法： この研究はアメリカにおける横断研究であり、世帯単位で 57 歳から 84 歳までの地域住民から抽出を行った参加者は、2,975 人であった。調査員が家庭での面談を行い、服用している薬・サプリメントの情報は直接容器などを見て確認し、アルコールの情報は質問により得た。習慣的飲酒は少なくとも週に 1 回飲酒があること、薬剤服用は少なくとも週に 1 回または毎日服用があることとした。記述統計の解析にはカイ 2 乗検定を用い、薬とアルコールの相互作用についてはロジスティック回帰分析を用いた。		
結果： 1,106 人は習慣的飲酒があり、567 人は習慣的飲酒とともにアルコールとの相互作用がある薬剤の服用があった。習慣的飲酒者の中で服用のあったアルコールとの相互作用のある薬剤では、気分安定薬や鎮静剤が最も多かった。高齢者で複数の慢性疾患を併存している人もアルコールと相互作用がある薬剤を服用している可能性が高い。		
結論： アメリカの高齢者における薬とアルコール相互作用の臨床研究は非常に重要といえる。集団単位で、特に習慣的な多量飲酒者に対しては、薬とアルコール相互作用について理解をしてもらい、そのような使用を防ぐことが必要とされる。		